

につきましては、過去にもあそこの渚の湯のホテルあたりの土地にそういった話が過去にもありました。現在もその土地がそのまま現存しているわけでございます。

私ども、企業誘致の担当としましては、当然厳原、あるいは上も一緒ですけども、同じ立場でそういった希望する企業を物色しているのが事実でございます。ただ、現状といたしましては、今ある旅館を旅館業等なさってある方々のやっぱり御意見も十分に把握しないと、どうかなという部分もあります。既存の旅館業を営んである方々につきましても、年中的に決して宿泊客が詰まっている状況ではございません。ほとんど空いているというお話も聞いております。だからその辺のやっぱり調整をしながら企業誘致は進めていくべきだというふうに考えております。

以上です。

○議長（作元 義文君） 以上で、大浦君の質問は終わります。

.....

○議長（作元 義文君） しばらく休憩します。開会を11時10分から行います。

午前10時53分休憩

.....

午前11時10分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 質問の機会をいただきましたので、ただいまより一般質問をさせていただきます。

さて、ことしも終わろうとしておりますが、報道によりますと、日本の景気はややよくなってきているということでもありますけれども、我が対馬においては、そんなことは感じられません。むしろまだ下降気味ではないかと心配しております。市長、対馬の今日の経済状況をどのようにお考えでありましょうか。

さて、通告に従いまして質問をさせていただきます。

1番目の経済対策についてであります。国の政策で始まりました緊急雇用創出事業臨時特例事業、またふるさと雇用再生特別基金事業が平成21年度から3年間、この基金事業が創設されてきて、いろいろな分野におきまして雇用対策が実施され、延べ279人の雇用があり、金額にいたしまして3億4,194万8,000円の事業費が投入されております。そのことによりまして、かなりの効果があったと思われま。

しかしながら、聞くところによりますと、雇用されておられる方もこの12月末で打ち切られるという人もおられます。このようなときにおきまして、23年度においてどのような基金事業があるのかお尋ねをいたしたいと思っております。

次に、島内の3つの高校の卒業者の合計が265名であるそうでございます。ハローワークにより調査をいたしましたけれども、内訳は専門学校を含む進学の方が195名、就職の方が70名で、そのうち12名の方しか島内には残られない状況であります。

いかに就職先がないかということがよくわかります。そして、あと四、五名程度就職が決まってない方もあるそうでございます、島内におきまして。そのようなときに、来年度予算において、どのような対馬経済の立て直しを今後取り組もうとしておられるのかお尋ねをしたいと思っております。

2番目の自衛隊増強について質問をいたします。

一昨日にも市長の行政報告、また国境離島活性化対策特別委員会委員長糸瀬委員長よりも報告がありましたが、その後の市長の対応について質問をいたします。

11月23日午後2時34分ごろより、北朝鮮より韓国延坪島への砲撃を受け、軍人2人、民間人2人、計4名の死亡が出ております。ほかにもけが人が多数出ております。本当に何をしでかすかわからない国であります。しかしながら、対馬に近いところにあります。市長、この韓国が攻撃を受け、あわや戦争になるかもわからない大事なときに、その時間とその後に対して市長はどのような対応をとられたのかお尋ねをしたいと思っております。

我が日本は、国土面積では61番目ではありますが、6,852の島々からなり、領海の面積は447万平方キロメートル、国土の1.2倍の広さで世界で6位であり、いかに離島が大きな役割を果たしていることを国はわかるべきであると思っております。ロシアのメドベージェフ大統領が国後島を訪問したり、115年ほど前は北方4島をいかにも返還するような署名をしておきながら、海洋資源の豊富さに目をつけ、今ではなかなか話にならないように思われます。

自衛隊関係者の間では、毎年北方4島返還の署名活動が続けられております。何としても国に頑張ってもらいたいと思うものであります。また中国尖閣諸島の問題においても日本に対抗してきております。今こそ日本の領海を守らなければなりません。

そのようなとき、年末には防衛計画大綱が発表されます。市長、そのようなときに、どのような対応をとられたのか、この20日ぐらいの間にですね、それをお尋ねしたいと思っております。

再質問は後で市長の答弁によりましてさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 中原議員の御質問に答えさせていただきます。

1点目の経済対策についてでございます。対馬の経済をどのように立て直していくのかというふうな話ではありますが、少なくとも国内の経済のパイがどんどん縮小していく中で、対馬の経済だけを伸ばすということは大変至難の業だと正直思っております。で、そういう中で、急激にそれを上げるということは、なかなか難しいというふうに正直なところでございますが、しかし、

そうは言っても、この対馬の経済がしぼんでしまって、先ほど議員の皆様で話が出ておりましたけれども、人口はどんどん減少していったら、これから先どうなっていくんだろうというふうなお話のように言われましたが、それを食いとめるためには、どうしてもこの私どもの基幹産業である水産業というものを復活させなければいけないと。これが長い目を見たときに対馬の再生につながるというふうに私は基本的に思っています。

このためには、何度もここでも申し上げ、市民の皆様漁業者の皆様と一緒に今取り組んでおりますけれども、海洋保護区の設定というものは、対馬にとってはすごく大切な問題だというふうに考えております。

で、約40年ほど前の私、上対馬比田勝に住んでおりましたけれども、その当時の比田勝の活況というのは水産業でもっていたというふうに思っております。ああいうような活況を呈するようなことであれば島全体が潤うというふうな思いもあります。どうかあの四十数年前の状況というものに向かっていきたいと思っておりますし、そのためには資源管理型の漁業というものを市民の皆様も漁業者の皆様も御理解をいただき、そこに向かって海洋保護区を設定をする。そのことによって漁価は必ずや上がるというふうに思っておりますし、資源も復活するというふうな思いを持っておりますので、愛知ターゲットで決まりました方向性というものに向かって、政府に早い海洋保護区の指定をお願いをしていかなければいけないと。それが経済のベースになるというふうに私は強く感じているところであります。

そういう中、高校生のお話がありました。確かに対馬の中でということになると難しさが現時点ではあろうかと思えます。しかし今、即効性のある事業所というものは難しいと。現時点のこの日本の経済の中では、いろんなところに足を運んでいっても難しさをすごく感じております。二、三年後の対馬の方向性というものをどうかして変えていくために、先ほど中原議員がおっしゃられた緊急雇用とか、ふるさと雇用とかいう国の制度を活用しながら一生懸命職員も取り組んでくれているところであります。

この事業につきましては、今までもこの2カ年間もしっかり頑張ってくれる中で、4億円余りの事業をやってくれております。そして、来年216人の雇用を予定をしております。で、38の事業であります。この数字とこの金額については、県下でも実は突出した数字です。で、緊急雇用はたしか基金は県に30億円しか市町村分はなかったと思っておりますけれども、そのうち数億円をうちの市が手を挙げて、そしてこれは一件審査でありまして、枠配分ではないものですから、職員がいろんなことを考えながらアイデアを出して雇用を生み出して頑張ってくれた結果だと思います。その結果、県下ほかの市町村から、どういう形で対馬市はそれを取っているんだというふうな問い合わせが来るぐらいでありまして、私は今回この来年の216人雇用の予定ですけども、これらこの3カ年の事業については、正直職員に感謝をしておりますし、職員も今の対馬の

経済状況、雇用状況というものを十分に把握して一生懸命に取り組んでくれた結果だというふう
に、正直皆様にこれだけこの部分に関しましては職員を褒めてあげたいというふうな思いを持っ
ているところであります。

2点目の自衛隊の関係でございます。それと、今回11月23日に起こりました南北の紛争が
起こった時点のお話を今尋ねられたわけですけど、昨日でしたか、一昨日でしたか、この11月
23日については、2時、今何分というお話がありました。正直言って、2時何分のときは全く
私はわかりません。情報も全く入っていませんでした。恐らく日本のマスコミに流れたのは5時
ごろだったというふうに私は記憶しています。というのが、私は6時からその日は対馬の厳原に
在住の永留久恵先生が自費出版された「対馬国志」が全国の自費出版大賞という大賞を受賞され
ました。それで、その受賞のお祝いの席に6時に行くということで、5時に出張から帰ってきて、
たしか用件が1件ありまして、5時に、なぜ5時かと言いますと、散髪に行った時間でしたから、
そこで散髪屋で実はテレビであることを知りました。で、その永留先生のお祝いの席では韓国の
大学の先生がお見えでしたから、この問題についてソウルにお住まいのこの歴史学者に話を聞こ
うということで、6時前に会場に行きまして、先生にお会いしました。そのとき先生は、その情
報をちょうど聞いたばかりで、韓国のほうに携帯で電話をされておられる最中でした。電話が終
わりまして韓国の先生に、「今回の件について教えてください」ということで聞きましたら、
「この件については、間違いなくすぐに終息しますね」というふうなお話をされました。「いや、
本当ですか」という話をしましたら、今までの韓国と北との物事のやり方をずっと熟知されてい
る方ですから、そういう意味において、また別の韓国の方に先生は聞かれたと思うんですね。

そのことを聞いたときに、私に対して、ほぼ間違いないとそういう方向になるということをお
っしゃられたものですから、若干の私は今回の件については、大きくなるいなということで安
心をした次第です。そのときに言われた言葉が、「米韓の合同軍事演習が間もなくしたらあるん
ですよ」と。私らは正直言ってわかりませんでした、あのニュースがあったときは、一報が入っ
たときは。その先生は、もうそのことを言われました。で、軍事演習に向かって、まず一つの威
嚇といいますか、警告を鳴らすために、今、北はああいうふうな行動をとっているんですよとい
うふうな冷静な判断をされたものですから、私は安堵したという次第です。

で、その後の推移をずっとニュース等で確認をしていきましたが、その途中から軍事演習の米
韓の軍事演習の話が翌日ぐらいから出てきたときに、ああそういう方向になるのかと、先生が見
通されたとおりになっているなというふうなことで、ずっと徐々に心が落ち着いていったのを覚
えております。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） ちょっと市長の答弁で拍子抜けしたところがありますけれども、後でまたやりたいと思います。

経済対策のほうから先に入らせていただきますけれども、やはりそのふるさと基金とか緊急雇用創出事業とかに職員の皆さんと市長がともに頑張られたということはわかります。この件に関して、来年度の金額は今言われませんでしたけれども、相当な額が出るんじゃないかなと思いますけれども、それ以外に対馬に對しましての新年度予算というところの状況は何か考えてあるものはないでしょうかというお尋ねをしたわけですが、お願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 新年度予算に向けてということですが、その前に、国の緊急対策が11月26日に出されたと思います。そのことをしっかりと反映させなくてはいけないという考えを持っております。

で、この金額につきましては、今これは枠配分で来ている分ですけれども、5億4,000万円の枠配分が来ております。ハード、ソフト何でもいいみたいですが、それをしっかりと組み立てていきたいというふうに思っております。

ところが、時期が時期ですので、新年度予算等、予算編成とかぶってしまう部分があったり、項目がかぶるんじゃないかというふうな別立てというのをごちゃごちゃになってしまう部分がすごくあるなというふうなことがあります。で、そのあたりの整理をきちんとしてから臨時議会でもお願いをしないとこれはいけないと。3月の定例までは当然待てないなという思いはしております。ただし、先ほど言いますように、当初予算と補正予算がごちゃごちゃになってはいけないので、そのあたりをきちんと整理をして、補正分ということで皆さんにお示しをしたいなというふうな考え方をしております。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 期待をしておきます。市長もやはり今度は3年目になりますので、しっかりと目玉になる対馬経済を支えていただきたいと思います。

きのうも全協でもお話がありましたけれども、やはり今対馬の消費が落ち込んでおりますので、家庭を例にとってみればわかりますけれども、収入を少なく出費はかさみ、そうなりますと家計は苦しくなっています。出費を抑えなければなりません。漁民の皆様方の話を聞きますところによりますと、峰からイカのトロ箱1箱出すのにでも、福岡の魚市に出すのに200円ぐらい運賃がかかるそうです。そういったときに、その比田勝辺から来るのなら、なお高いものにつくかもわかりませんが、運賃が2割でも3割でも安くなれば、漁民の皆さんの収入は増えると思います。また、本土からいろいろな品物を買うときも船運賃の高いところになります。

やはり島内において第1次産業の農業では、イノシシや鹿の被害に遭われ、水産業においては

大中まき網や底引きによる漁業の低迷等によりまして、島内での事業拡大はなかなか見込まれていない今日であります。そのようなときに、きのうも話があったおりました海の国道としての見直しをやはりしっかりと県や国に訴えていくべきではないかなと私は思います。

市長も一生懸命取り組んでおられるのはわかりますけれども、11月27日の新聞によりますと、もうきのう全協であった九州郵船のジェットフォイル2割、フェリーは1割との分がこれ11月27日段階で載っておったわけですが、その中におきまして、五島のほうの、ちょっと書き方がわかりにくかったんですけども、身障者割引拡充自動車航送割引の利用実績が少くないとして、航送料そのものを割引することが決まったということが書いてありますので、この身障者割引だけかなというところがわかりにくい点があるんですけども、やはりこの場合に物流に対しましても、航送料そのものが割引されるということが前提になると思います。議会を挙げてその意見は一致しておりますけれども、特に力を入れていかなければならない人間の運賃の値下げとともに、物流に対してのコストダウンというところにつきましては、市長、こういった考え方をもちでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 物流のこの運賃の部分につきまして、今漁協の組合長さんたちに提案をさせていただいてあることがあります。これについては来年度から取り組みをしたいと思っておりますが、インターネットを介して顧客を広げていくということがすごく大切なんではないかと。小口の消費者向けに物を流し込んでいくというふうに、今の漁獲高のそれこそ5%でも10%でもいいから、そちらに振り向けていくべきではないかという提案をさせていただいております。それらにつきましては、運賃の助成を主として一定の年限を区切ってしていきたいというふうな考えを提示を今協議をしているところであります。

この意味するところは、今の物流の流れでは、漁師さんの手取りは上がらないというふうに思っています。この流通にメスを入れないと、第1次の生産者は永遠に苦しむのではないかと。ならば小口の消費者をどれだけ開拓しながらやっていくか。それはJAでもJFでも一緒だと思います。そちらに転換をしていっていただきたいという思いで、そのような今制度を組合長の方々に提案をし、協議をしているところであります。そういう意味の運賃助成を組み立てております。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） ぜひそういったことはどしどしと進めていっていただきたいと思っております。

県の離島振興法の延長とか拡充に向けて協議している団体があります。その団体によりますと、離島の自立的発展につきましては、本土と離島間の輸送コストを陸上交通並に低減化するなど思い切った措置を講じる必要がある。また島民生活や島内産業に大きな影響を与えるガソリン価格

の是正を図るため、揮発油税を減免する必要がある。産業創出や企業立地に向けては、法人税の減税など、大胆な優遇措置が必要であると、こういった提言をしてあります。まさしくそのとおりであります。ですから、市長があらゆるところで物申す場面が多いかと思えます。ぜひ対馬島民の懐を守るためにも頑張ってくださいと思います。

そして、この海の国道でございますけれども、24年4月から新しいフェリーが就航する予定になっておりますけれども、とんでもない話かわかりませんが、今島内経済の低迷が続く中におきまして、値下げした運賃で1年前倒しでできないものかなと私は思うわけです。

きのうの説明によりますと、11年間ほど運賃の低減化を図ると九郵からの話であるようにありますけれども、これが九郵側と話をされまして、今対馬の経済を立て直すときではないかなと思えますが、来年4月より1年前倒しでできないものかなと思えますけれども、市長、急に言われても返答が困るかと思えますけれども、どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 前倒しが一番よろございますが、昨日この問題で話していたように、年間8,000万円ですかね、という金額を、ではどこが負担をしていくのかということになるかと思えます。で、九郵さんがこの負担をしていただけるならば、それが一番いいんですけども、私どももその8,000万円という金額を到底一般財源で物事組み立てるということは不可能かと思えますし、今の長崎県の離島基幹航路協議会のほうに、このような御意見がありますということで1回お伝えはしたいというふうに思えます。しかし、正直なところ、これ大変苦しいことだろうと思えます。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） ぜひ本当、市長、市民を守る一番の市長ですから、それが役目ですから、いろいろな痛み分けをしていただいて、九郵にも痛み分けをしていただいたり、そういったところの団体にも痛み分けしてもらったりとか、一般財源がなかなか今対馬の財源も厳しいのよくわかります。そのときには幾らかの基金の取り崩しを前倒しでやっていくとか、何らかの、急な私の質問ですから、まともな答弁はできませんけれども、じっくりと考えて、あと4カ月程ありますので取り組んでいただきたいと。そうすることによって、本当に島民に喜ばれることになるのではないかなと私は思います。よろしく願いいたします。

10月23日に「国境離島・外洋離島フォーラム」が上対馬でありまして、そのときに中村知事が申してあります。「離島の発展なくして長崎県の発展はあり得ません」と豪語してあります。第2のふるさととして中村知事は対馬をたくさん思っているという認識いたしておりますので、この点十分力を入れていただきたいと思う次第であります。

次に、自衛隊問題に入らせていただきます。

市長にお尋ねしたかったのは散髪屋で云々かんぬんの問題じゃなくて、この市長も新聞を読んでいるとは思いますが、本当に正直な方だときょうは思いました。そのとおりに話をされて、新聞を読めば時間とかいろいろ対処方法とか、すぐ一目瞭然でありますけれども、そのままの話をされたなど、きょうは本当に思いましたけれども、しかしそれではできないんですよ、私が答弁を求めたいのは。この23日から今日までの対馬への自衛隊誘致増強をどのような対応をされたかという答弁を求めたかったわけです。糸瀬委員長もその報告されましたけれども、市長も報告されました。それでわかったんですね、誘致増強は。しかしながら、この北朝鮮の問題がありましたから、市長の東京とか長崎県へのどういった対応をとられたものかを、それをお尋ねしたいわけです。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 済みません。私は延坪島のときの私の行動を教えてくれというふうに思ったものですから、あの日の正直なところを伝えた（「どちらも変わらんやないね」と呼ぶ者あり）その後の行動ということですね、今日までの。正直言いまして、この問題につきましては、4月にですね……（発言する者あり）

○議長（作元 義文君） 私語は慎んでください。

○市長（財部 能成君） 4月に哨戒艦の爆破の事故が、やはり同じ海域でありました。そのときに、私どもの対馬の陸自・海自、それから警察の方々、それから入国管理事務所の方々と有事の際のお話等を皆さんでそれぞれ個別にさせていただいたところでもあります。これらについては、国の対マニュアルというのがきちんとできていないのが現状だというふうに聞いております。

で、今回、この11月23日以降の話につきましては、直接防衛省なんかには話を持っては行っておりません。実際問題、防衛省のほうも緊急事態ということで、いろんな動きがあっておりますので話はしておりません。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 時間がありませんので、ばりばりやりたいと思います。

市長の行政報告を読ませていただきまして、この中におきまして、一個連隊規模の自衛隊増員が入っておるわけですね、最初の分に。一個連隊規模の自衛隊増員には、どのような意味なのかをちょっと説明を願いたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この一個連隊、それから航空部隊、それから自衛艦接岸のできる可能な岸壁という3項目に絞っていただいたのは、特別委員会のほうでお絞りをされたわけでありまして、私もそういう方向でいいんじゃないですかという同意をして、一緒に要望活動をしたところでもありますので、どういう意味かと言われても、私もちょっと答えづらいなというふうなのが正

直あります。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） それではちょっと私から尋ねます。

要するに、一個連隊規模というのは、陸上自衛隊を指して一個連隊1,000人規模を指してあるものか、陸・海・空でそういった委員長報告の国境離島にふさわしい自衛隊員の増員を目指したのか、ちょっとニュアンスのとり方があるものですから、そこら辺を尋ねたいんです。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私は陸自の一個連隊1,000人というふうに自分自身は解釈をしておりますが、特別委員会のほうが、もしかしてそこまでの打ち合わせをしたか、今ちょっと記憶が戻らんのですが、私は陸自の一個連隊という考え方をしておりました。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） ちょっとその辺が正直なところ委員長ととり方が変わっておるようにあります。だから尋ねたわけですけどね。

やっぱり、できましたらトップが常に市長話をされるわけですから、大事なことでありますので、この辺はしっかりとチームワークでやっていただきたいと思います。

委員長の話によりますと、やはり陸・海・空に合わせて、ふさわしい自衛隊の増強は防衛省が決めることであって、我々が云々かんぬんは言えませんのでということでございます。私もそうでないかなと思います。その辺どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私の解釈と特別委員会の解釈が齟齬があったということで、それは申しわけないと思いますが、私はもっぱら一個連隊といったときに、陸自を頭の中では想定をした次第です。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 1,000人規模の陸上自衛隊が、とにかく上のほうは手薄であると私は思っております。上の方にそういった一個連隊1,000人規模でも来ていただけるなら、本当に最高の国境防衛になると思っておりますので、いずれにいたしましても、自衛隊増員を進めていただきたいと思っております。

で、要するに、市長がこの約十何日間の間、何もされなかったということでございますけれども、11月25日です。県は24日、海上自衛隊の潜水艦部隊を佐世保市内に配備するよう防衛省に要望し、25日に藤井健副知事が、末竹健志副市長とともに防衛副大臣に面会したとあります。このようなときに対馬の自衛隊状況に対しては、県は市長どの程度わかっておるわけでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） どの程度わかってあるかと言われても、ちょっと私もわかりかねますが、この動きというのは、十分に私どもも伝えてきているわけでございまして、きょうも議会の傍聴にはちゃんと地方局のほうからも来てありますから、その方向性というのは逐次、県庁のラインの中で流れていっていると、いつもですね、というふうに思っております。で、ここでも特別委員会の報告もあり、そして皆さんからの自衛隊増強に関するいろんな動きというのは、県のほうも十分に把握はされておるはずですよ。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） いや、市長はそう思っているだけで、市長自体はその危機管理防災課長とか、そういった辺は一回でもそしたら話をされたんですか。その中村知事とか話をされたんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 記憶が正直言って戻りませんが、知事に、出県した際に、あわせてこの問題については知事にお話をさせていただいているわけです。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 早くそれを話していただければよかったです。

防衛大綱は、今月の、もうあと二、三日ですけども、10日に閣議決定がなされるという報道があっております。そしてこの年末に発表されるということでございますけれども、やっぱり日本にお金がないところから自衛隊削減、特に陸上自衛隊の定員が削減されるかもわからないという新聞等で読んでおります。このようなときに、本当に今佐世保にもその潜水艦基地が陳情をされてあるように、市長、議会も大事ですけど、本当に今こそ委員長とでも陳情に行ってやるべきやとですよ。

12月3日の、これ毎日新聞ですね、「76年の18万人から、大綱見直しのたびに定員が削られてきた経緯もあり、部隊のやりくりで何とかできる限界を超えている」。陸上自衛隊幹部は反発をいたしております。頼みの綱は駐屯地などがある地方自治体の陳情、2日には、これは12月2日のことです。12月2日には、部隊がいなくなれば、地元経済への影響は大きい。北海道の全市町村でつくる協議会が体制維持を政府に申し入れた。防衛省は、既存の基地は当面維持する方針だが、同省幹部は、どう考慮しても陸上自衛隊定員は減らすしかないと言っております。

こういったときに、頼みの綱は駐屯地などがある地方自治体の陳情とまで書かれてあります。今こそ陳情すべき対馬を訴えるチャンスじゃないんでしょうか。どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） その陳情活動については、要請活動は今までずっと、もう何度となくやってきておりますし、そしてこの中期防の方向性が出たときに、南西防衛ラインのことがきちんとうたわれました。この南西防衛ラインは、沖縄からこの韓半島までをつなぐラインを指しておりまして、南西防衛ラインの一番北端に対馬が位置するというふうに私どもは今まで防衛省でも聞かされてきておりますし、ここに自衛隊を動的戦力でしたか、動的な配置をしていくんだというふうな方向性が今出ておりますけども、その中に私ども対馬が入っているんだというふうに私は理解をしておりますし、この件以外でも国境離島新法、要するに防人の島新法のことでも自民党さん、民主党さん、すべてにわたってお願いをし、それぞれ自民党のほうについては議員立法で出すということで法文まででき上がっている状況でした。そのあたりの部分は十分に今回の中期防に反映していただける機運が盛り上がっているなというふうに私はもう理解をしておりますので、今この時期に行くまでもないと、もう、いうふうな解釈を自分としてはしております。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） そうですね。ちょっとやっぱね、私は残念ですね。やっぱりこの11月23日の問題がなかったならば、市長は10月にも陳情してありますので、それでよかったかなと思いますけれども、特に今この対馬を訴えるときであると思いますよ。特に上のほうには自衛隊員は海栗島に160名の隊員がおります。海上保安部もありますし、海上自衛隊もわざわざおられます。対馬で約720名の自衛隊員が頑張っていておられます。5日からきょうまで、陸上自衛隊320名の隊員が行軍をされたり、訓練をされたり、一生懸命頑張っておられますけれども、この720名の隊員では、とてもじゃないけど、対馬に難民が押し寄せたり、有事の際には間に合いません。本当に市長、今だと思うんですよ、陳情するのは。先ほどの新聞にもありますように。11月23日がなかったならば、それでよかったかもわかりませんよ。このままでいいでしょうか。防衛計画大綱に入らなかったときはどのように思われます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 中期防に入らなかった場合というお話が出ましたが、私は正直言いました、中期防、膨大な書類を見たことがありませんけれども、先ほど言いますように、南西防衛ラインという一つの概念を出して、あそこに何人とかいうことは決してうたうことはないと思います。それは国家機密に関することですから、対馬の名前が出なかったらどうするんだと言われても、南西防衛ラインという物事の捉え方の中に対馬が北端で入っているということを皆さんが、防衛省は言っているわけですから私はそこを動的な配置をしながらやっていくんだというふうなお話をその方向で決まっているということを知っているんですから、それを信じる以外には私はないと思っておりますけど、どうしろと言われてもちょっと難しい問題だなと。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

午後0時00分休憩

.....

午後0時02分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

ただいまの中原議員の一般質問の中で、もし調査して法に触れるような部分があれば議長の権限で削除することにします。よろしいですか。（発言する者あり）はい。関係部分は削除します。

以上で、本日の市政一般質問を終わります。

○議長（作元 義文君） 本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後0時03分散会
